

次世代掃除ロボ公開

本学fuRo(未来ロボット技術研究センター)と家電最大手のパナソニック㈱が共同開発した次世代ロボット掃除機のプロトタイプが11月1日、東京国際フォーラムで開催中のパナソニック創業100周年記念イベントで華々しく公開された。最先端のAI(人工知能)、自動操縦、ロボット技術を搭載したこのロボット掃除機の開発を手始めとして、パナソニックはfuRoとの産学連携をさらに強め、白物家電の知能化を一層進めていきたいとしている。

公開会場で(左から)古田所長、本間社長、パナソニック系BeeEdge社の春田真社長



fuRo+パナソニック 連携第1号

開発新手法 家電知能化を牽引

AI床センサー、ScanSLAM、otomo機能…

fuRoとパナソニックが共同開発した次世代ロボット掃除機のプロトタイプ=写真=は、床上の物体を認識し、段差に応じて自動的に本体を持ち上げて走行を続けたり(AI床センサー)、部屋の形状や人など、周囲全体の動・静物体を認識して、瞬時に自分と相手の位置を把握したりする知能(ScanSLAM)を備えている。

また、自動操縦技術との組み合わせで、タブレット端末で掃除する場所を遠隔で掃除機に指示したり、人に寄りそうように追従する「otomo機能」を使って、掃除機と人が協調して掃除することもできる。

周囲の環境と自分の位置を正確に把握できるため、確実に充電台に戻り、電動で充電台に縦置きに吊り上げる機能も実



現した。

「1年以内に発売」

記者会見で本間社長は「製品は1年以内に発売する」と明らかにした。

「千葉工大とパナソニックの混成チームの目的は、知能化白物家電の開発プロセスの革新にありました」――fuRoの古田貴之所長は、東京国際フォーラムのホールCを埋めた約1500人の

NEWS CIT

2018
11.15

ニュースシーアイティ

千葉工業大学・入試広報部
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼
2丁目17番1号
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344
<http://www.it-chiba.ac.jp/>
毎月1回(8月を除く)15日発行

ニュースガイド

- 2面 産学懇談会開く／伝統技法チームが国内最優秀賞
- 3面 飯田教授、島崎さん、太田さん最優秀論文賞／森さん学生発表奨励賞／手嶋研4人が受賞／PM国際資格に続々合格
- 4面 長瀬教授に経産大臣表彰／総工研新旧がロボワン1、3位／ベトナム客員3人の3カ月／ロボプロ全国大会
- 5面 エコメッセ2018／世界湖沼会議／南房総市大井地区の区民祭・祭礼に参加／廃校舎でハロウィンアート／金田准教授がポッチャ体験会
- 6面 船橋市で「科学の大広場」／スポフェス／計報

聴衆にこう話しかけた。本学とパナソニックは昨年12月、津田沼キャンパスに「パナソニック・千葉工業大学産学連携センター」を開設した。創業100年目をスタートさせたパナソニックが家電事業を今後、どのように展開・発展させていくべきか。その牽引役として、まずロボット掃除機の知能化を進めるためだ。



協定書を掲げる村越市長(前列中央左)と瀬戸熊理事長(同右)、小宮学長(右端)

さらに、その現場で出てきた教員の意見を本学

本市は10月15日、市川市と包括的連携協定を締結した。千葉県内で同様の協定を締結した自治体は習志野市、浦安市、御宿町(以上2014年)、千葉市、香取市(同16年)、船橋市(6面参照)に続いて7番目。本学が積極的に進めている「地域社会との共生」がさらに前進した。

が汲み上げ、新たなアプリを開発する。これには市川市と別途、協定を結んだIT企業も参加し、産学官で市川市の小・中学校教育を一層活性化させようというもの。

これに心えて瀬戸熊理事長は「AI(人工知能)の急速な進歩で、10年後には日本の労働人口の約半分の職業がAIによって代わられると言われている今、千葉工大がこのような形で市川市の小・中学生のお役に立てるのは、大変に光栄なこと。最先端の科学技術に挑んでいる5つの研究センターと5学部17学科の知財を集めて、市川市民との共生のために貢献していきたい」と語った。

市川市とも包括協定 地域社会との共生さらに

「進化はまだまだ進む」

「家電のロボット化と一緒にやってくれるパートナーを求めて、アメリカやヨーロッパ、中国まで」

「オープンイノベーション」は、本学の「Halluc II」や「Gangarog」をデザインしたプロダクトデザイナーの山中俊治氏とパナソニックのデザイナーとの共同制作を指す。デザインとエンジニアリングの双方でオープンイノベーションを

「これに古田所長は「これは第一歩。これから家電の進化はまだまだ進みます」と応えた。

で回ったが、なんと足元の千葉工大に最適なパートナーがいた」と、パナソニックの社内カンパニ

「ロボット掃除機は非日常的な作業を毎日行う、メーカーにとって非常に難しい家電製品。今回のコンセプトモデルの開発で、私たちの事業の将来を見据えることができ

「ロボット掃除機は非日常的な作業を毎日行う、メーカーにとって非常に難しい家電製品。今回のコンセプトモデルの開発で、私たちの事業の将来を見据えることができ

産学懇談会 開く

参加企業初の600社超え

理事長「ぜひ研究室も訪ねて」

本学が企業と親睦を深め、学生の就職情報を交換し合う今年度の「産学懇談会」が11月2日、ホテルニューオータニ幕張で開かれ、昨年より35社多い614社の人事・採用担当者627人が出席した。参加企業が600社を超えたのは初めて。好調な業績と人手不足を背景に、年々ブランド力を高めている千葉工業大生への企業の期待がますます高まっていることが表れている。

第1部の冒頭であいさつした小宮一仁学長は、この春の本学の入学試験志願者が8万人を超え、一般入試の志願者数では、3年連続で全国の私立大学603校中のベスト10に入ったことを紹介。また、第2部であいさつに立った瀬戸熊修理理事長は日本私立大学協会で就職問題を統括する常務理事の立場を踏まえて、次のように述べた。

「経団連の『指針』廃

が評価されている。今後、も建学の精神が『世』界文化に技術で貢献する『人材の育成に力を注いでいきます』と、ぎっしりと会場を埋めた参加者にアピールした。

また、第2部であいさつに立った瀬戸熊修理理事長は日本私立大学協会で就職問題を統括する常務理事の立場を踏まえて、次のように述べた。

止表明以来、混乱していた大学生の就活ルール問題は10月末、政府が乗り出して、現在の2年生までは現行日程を維持することを正式決定。現1年

生以降も当面、現行の日程で行く方針となったが、この問題は基本的に企業と大学がしっかりと協力し合っていないと、双方ともに疲弊してしまいます。企業の方には、ぜひとも今回の政府確認を守ってくださるようお願いしたい」

「そのためにも皆さまには、ぜひ大学の就職課に足を運び、よい関係を築いていただきたい。本学も就職課と各研究室・

4年生の内定好調

本学では現4年生の就活も絶好調に推移している。9月末の内定率は82%を超え、過去最高を更新した。

「就職活動で最も重要なことは事前の準備。『学生の売り手市場』などという言葉に惑わされず、しっかりと準備した人が最後に良い結果を残すことができる」と考えてもらいたい。学生諸君に改めて言いたいことです」

第1部では、本学の田代政司審議役（元会計検査院事務総長）が「少子高齢化社会を迎える日本の財政健全化を考える」と題して講演した。



① 今年度産学懇談会の会場(ホテルニューオータニ幕張で)
② 懇親会会場では名刺交換に長蛇の列

本学が国内最優秀賞

第16回 World Materials Day Award で 金属の伝統技法チーム



11人は▽宮崎優作さん(機械サイエンス学科4年)▽高橋駿さん(先端材料工学科3年)▽高須信秀さん(同)▽滝口瑛介さん(同)▽鈴木絵梨奈さん(同)▽松下美羽さん(同)▽細谷昌史さん(機械サイエンス専攻修11年)と、今春に機械サイエンス学科を卒業した▽蛭川晃介さん▽南雲聡さん▽宮本将さん▽

受賞した伝統技法チーム(左から)滝口さん、高須さん、清宮さん、高橋さん、鈴木さん、松下さんと小澤准教授

1期生の卒業には間に合わなかったが、2期生(現機サ4年)、3期生(先端3年)のメンバーが今回受賞した。

出展した木目金は、奇麗な木目模様が出るよう高温作業のなか工具選定、使い方や加工の度合いなどを試行錯誤。工作センター技術員の協力も

「CITものづくり」実る

材料系の国際学協会連携組織 IOMMS (International Organization of Materials / Metals and Minerals Societies) が、今年度の「材料に関する知識とその重要性を社会や若者に啓発する活動」に貢献した学生を世界で同時に顕彰する第16回 World Materials Day Award で、日本の最優秀賞に本学の材料系学生11人の伝統技法チームが決まった。

日本側を審査する日本金属学会の秋期講演大会(9月19・21日、仙台市の東北大・川内北キャンパスでプレゼン・審査)で最優秀賞に選ばれ、World Materials Dayの11月7日に発表された。授賞式は本学で行われた。チームが発表したのは「これぞ日本の伝統金属加工技術・木目金&煮色着色!」平成21年度に始まった「CITものづくり」制度が支えた成果だった。

和田拓哉さん。

「木目金」は、異なる金属・合金を重ね合わせ圧接した後、表面の切削と圧延を繰り返して、表面に木目模様を作り出す技術。「煮色着色」は、その表面をさらに大根おろしで洗浄し、薬液で煮込むことで奇麗に発色させる独特の手法。

2013年、小澤俊平准教授の材料概論講義などで興味をもった当時の機サ1年生たち(今年3月卒)が、小澤准教授をアドバイザーに、CITものづくりに応募して始まり、26年度CITものづくり最優秀賞を受賞。その後も自主活動を続けてきた。

1期生の卒業には間に合わなかったが、2期生(現機サ4年)、3期生(先端3年)のメンバーが今回受賞した。

出展した木目金は、奇麗な木目模様が出るよう高温作業のなか工具選定、使い方や加工の度合いなどを試行錯誤。工作センター技術員の協力も



「就職活動で最も重要なことは事前の準備。『学生の売り手市場』などという言葉に惑わされず、しっかりと準備した人が最後に良い結果を残すことができる」と考えてもらいたい。学生諸君に改めて言いたいことです」

飯田教授、島崎さん、太田さん

音のVR研究 最優秀論文賞

情報家電について産官学の研究者が最新の研究成果を発表する第7回国際会議(GCCO 2018) I E E E (米国電気電子学会) コンシューマー・エレクトロニクス(サイエティ主催)は10月9〜12日、奈良市の奈良ロイヤルホテルで開かれ、飯田一博・知能メディア工学科教授、島崎光さん(電気電子情報工学専攻修士1年)、太田正人さん(同2年)ら3人の共著論文が、優秀論文賞の1位を獲得した。



IEEEから贈られた賞状

論文は「Generation of the individual head-related transfer functions in the upper median plane based on the anthropometry of the listener's pinnae (聴取者の耳の形状データに基づいた上半球正中面の個人の頭部伝達関数の生成)」

音のVR(バーチャルリアリティ)では、聴取者の頭部伝達関数を利用するが、個人差が大きいので、特殊な設備が必要なので、1人1人の頭部伝達関数を測定して対応することは不可能だ。

飯田教授らは、無

響室での10年に及ぶ頭部伝達関数の測定と分析により、耳の形状データ(写真)から個人の頭部

伝達関数を精度よく生成する方法を構築し、音のVRの多人数利用へ一歩、道を切り開いた。発表論文300件余りの中から論文賞候補6件が選ばれ、講演発表による審査で飯田教授チームが最優秀賞に決まった。飯田教授は「無響室な

どの研究環境を整えていたに感謝することに感謝します。共著者の学生だだけで、被験者になつてくれた歴代の研究室生諸君にも感謝します。さらに研究を進め、音のVRの実用化を世界に先駆けて実現したいと思えます」と述べた。

ローバルアワード、海東達也さん(機械サイエンス学科4年)と篠原渉さん(同)がエクセレントポスターアワードを受賞した。

4人の発表内容と受賞の感想は次の通り。

「国際会議で理解しやすいポスター作りと説明を意識しました。それが評価され、とてもうれしかったです」

手嶋研4人が受賞

英語で発表 IWP2018

筑波大が科学全般で新アイデアを求める「科学と特許の国際ワークショップ(IWP2018)」は9月21、22日、茨城県つくば市のつくば国際会

議場で開かれた。一般の部(英語によるスピーチ・ポスター発表)で、手嶋吉法・機械サイエンス専攻修士2年)がベストプレゼンテーションアワード、町屋

研究室たちが成果を発表。西田匠太郎さん(機械サイエンス専攻修士2年)がベストプレゼンテーションアワード、町屋

Boerdijk-Coxeter helix (正四面体を直線状に面連結した構造)を機械要素へ応用するための基礎研究。発表ではBoerdijk-Coxeter helix

「Reproduction of Ikegami's 3D jigsaw puzzle and symmetry of the puzzle pieces (池

「A New Wheel to decrease vibrations (振動を緩和できるホイール)」

「受賞できると思っていなかったため、とてもうれしく感じました」

森さん 学生発表奨励賞

テーブルの形状と利用者の心理を実験調査

本学デザイン科学科・白石光昭研究室に事務局を置く日本インテリア学会の第30回大会(10月21日、津田沼校舎7号館で開催)で、森亮太さん(デザイン科学専攻修士2年、橋本都子研究室II写真)が「テーブルの形

状が利用者に与える心理的影響―家具の寸法と形状に関する実験的研究その1―」を口頭発表し、学生発表奨励賞を受賞した。

テーブルの寸法と形状が、使う人の心理に与える影響について、実験調

査で明らかにする試み。学内のワークスペースを可動パーティションで3つに区切り、▽テーブルの奥行き▽テーブルカウンターの有無▽2つのテーブルの高さ―を変数とし、それぞれで「相手の存在」「会話の距離」「印象評価」を調

べた。奥行きは、話しやすさに結び付き、テーブルカウンターはあると「くつろげる」、高さに違いが大きいと会話の距離が遠い、などの結果が出た。家具の形状が心理に大きく影響を与え、空間機能に合わせた家具選びを

森さんは「学会での口頭発表は初めてで不安はありましたが、賞をいただける、とてもうれしいです。多くのアドバイスをいただいた橋本教授ら先生方、実験に協力していただいた方々に感謝しています」と語った。

森さんは「学会での口頭発表は初めてで不安はありましたが、賞をいただける、とてもうれしいです。多くのアドバイスをいただいた橋本教授ら先生方、実験に協力していただいた方々に感謝しています」と語った。

森さんは「学会での口頭発表は初めてで不安はありましたが、賞をいただける、とてもうれしいです。多くのアドバイスをいただいた橋本教授ら先生方、実験に協力していただいた方々に感謝しています」と語った。

森さんは「学会での口頭発表は初めてで不安はありましたが、賞をいただける、とてもうれしいです。多くのアドバイスをいただいた橋本教授ら先生方、実験に協力していただいた方々に感謝しています」と語った。



森さんは「学会での口頭発表は初めてで不安はありましたが、賞をいただける、とてもうれしいです。多くのアドバイスをいただいた橋本教授ら先生方、実験に協力していただいた方々に感謝しています」と語った。

森さんは「学会での口頭発表は初めてで不安はありましたが、賞をいただける、とてもうれしいです。多くのアドバイスをいただいた橋本教授ら先生方、実験に協力していただいた方々に感謝しています」と語った。



受賞した(左から)西田さん、町屋さん、(1人置いて)篠原さん、海東さん

PM 国際資格に続々合格

新たに14人 ビジネスに必要な能力

米国プロジェクトマネジメント協会(PMI)が認定するプロジェクトマネジメントの国際資格CAPM®(Certified Associate in Project Management)の2017年度取得試験に、本学の14人が新たに合格した。

CAPM®は「目標設定↓計画↓実行・修正」を科学するプロジェクトマネジメント(PM)の能力を認定するもの。法的効力はないが、ビジネスに必要な能力で、就活に有利に働く。

試験はコンピューターで受験し、3時間で150問に解答。17年度は昨年6、10月と18年2月に

試験はコンピューターで受験し、3時間で150問に解答。17年度は昨年6、10月と18年2月に



認定証を手にした合格者たち

試験はコンピューターで受験し、3時間で150問に解答。17年度は昨年6、10月と18年2月に

試験はコンピューターで受験し、3時間で150問に解答。17年度は昨年6、10月と18年2月に

長瀬教授 経産大臣表彰

工業製品の標準化に貢献

毎年10月の「工業標準推進月間」に合わせ経産省が顕彰する「工業製品標準化推進活動年度受賞者」に、機械電子



創成工学科の長瀬亮教授が選ばれた。工業製品の標準化推進活動の功績をたたえるもので、授賞式は10月2日、

東京千代田区の都市センターホテル・コスモスホールで行われた。長瀬教授の専門は光ファイバー応用技術。光通信技術の初期から通信光コネクタの研究開発に携わり、基盤技術の確立や標準化に貢献した。開発した光コネクタは世界の光通信ネットワークで使われている。

授賞理由では「長瀬教授は標準の策定や適合性評価活動などさまざまな取り組みに貢献し、今後とも継続的な活動が期待できる」と称賛している。

長瀬教授は「17年続けていた標準化活動に関して、経産大臣表彰をいただき誠に光栄です。一緒に働いた国内委員の皆様と、推薦していただいた光産業技術振興協会の皆様に深く感謝申し上げます。今後も我が国の技術の国際標準化活動に邁進して行く所存です」とコメントした。

「未ロボ」の全てをベトナムへ 客員3人吸収3カ月

「未ロボ」の全てをベトナムへ 客員3人吸収3カ月

「未ロボ」の全てをベトナムへ 客員3人吸収3カ月

「未ロボ」の全てをベトナムへ 客員3人吸収3カ月

ロボワン 総工研新旧が1、3位

OB立野さんと現役・吉岡さん 二足歩行部門

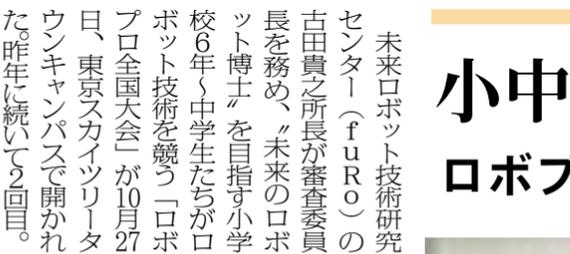
第33回ROBOON E(ロボワン)二足歩行ロボット協会主催)は9月23日、横浜市の神奈川県立立野少年センターで開かれた。二足歩行ロボット(重さ3kg以下)格闘競技部門で、本学文化会



優勝した立野さん(左)と吉岡さん

・総合工学会(総工研)OBの立野伸英さん(2017年、機械サイエンス学科卒)のロボット「Speranza(スペランツァ)」が見事2連覇。総工研現役・吉岡真一さん(未来ロボティクス学科3年)の「ナスカ」が3位に入賞した。

立野さんは技術賞と、ロボット機器企業「近藤科学」賞も獲得した。決勝戦で立野さんの「Speranza」は大坂電気通信大のロボットと対戦。倒し倒されの熱戦となったが、立野さんのコントローラーさばきが勝った。3位入賞・吉岡さんのマシンは、総工研入りし



て4機目のロボット。相手と激しく接触するので特に頑丈さに留意した。頑丈であればフレームのたわみなどによる動きの誤差が少なく、狙った通りの制御がしやすい。そのため全身にカーボン板を多く使い、なお3kgに収まるよう工夫したという。立野先輩の後を追

2013年に本学と交流協定を締結したVNUETは、ベトナムの大学の中心的な存在。農業、宇宙、ロボット、環境の4領域を向こう4年間の最重要領域に指定し、政府主導で多大な予算措置を講じている。

ベトナムでは、ソフトウェア系技術は発展しているが、ハードウェアを伴うロボット技術などは、今後発展させなければ

ベトナムでは、ソフトウェア系技術は発展しているが、ハードウェアを伴うロボット技術などは、今後発展させなければ

小中学生の技術 開花

ロボプロ全国大会 タウンキャンパスで競技



ロボプロに参加した小中学生たち

ロボプロに参加した小中学生たち

未就学児から中学生までを対象にロボット教室を各地で展開しているヒューマンアカデミー(株)東京都新宿区IIが主催。この大会は同教室の5コースのうち、最上級の「ロボティクスプロフェッサーコース」に在籍する児童・生徒が対象。同コースの教材やカリキュ

未就学児から中学生までを対象にロボット教室を各地で展開しているヒューマンアカデミー(株)東京都新宿区IIが主催。この大会は同教室の5コースのうち、最上級の「ロボティクスプロフェッサーコース」に在籍する児童・生徒が対象。同コースの教材やカリキュ

未就学児から中学生までを対象にロボット教室を各地で展開しているヒューマンアカデミー(株)東京都新宿区IIが主催。この大会は同教室の5コースのうち、最上級の「ロボティクスプロフェッサーコース」に在籍する児童・生徒が対象。同コースの教材やカリキュ

水環境の保全研究を展示

エコメッセ2018 in ちば 村上研、五明研、環境科学研

環境活動の見本市「エコメッセ2018 in ちば」が10月8日、幕張メッセ国際展示場で開かれた。市民団体・大学・企業・行政等111団体が出展し、約9000人が来場した。

今年のテーマは「ちばから発信SDGs（国連で採択されたSustainable Development Goals）持続可能な開発目標」。

本学からは▽生命環境科学科生物圏環境研究室



村上研 バイオ・エコエンジニアリングを活用した環境保全、特に微生物生態学の立場から水環境の保全研究に取り組んでいる。

今回は、4年生10人と修士1年生1人の研究成果をパネル展示。▽生物指標による県内河川環境マップの作成▽谷津干潟（三角干潟）の環境調査▽連沼海浜公園ポット池の24時間モニタリング調査▽マイクロコズムを活用したWET試験法の提案、銀ナノ粒子・ネオニコチノイド系農薬の生態

環境科学研が成果発表

世界湖沼会議 高木さんらと村上教授

湖沼環境の保全などを話し合う国際会議「第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）」が10月15～19日、茨城県つくば市のつくば国際会議場ほかで開かれた。各国の研究者・行政担当者・NGOと聴衆の市民ら約5500人が集まり「一人と湖沼の共生」持続可能な生態系サービスを目指す

「テーマ」をテーマに発表が続いた。

本学は文化会館の環境科学研究会（顧問：村上和仁・生命科学科教授）がサークル活動の成果「印刷場における水質および水環境健全性指標調査（2012～17年）」を、高木結花さん（前部長・生命環境科学科4年）▽石井元揮さん（前



会場前で村上研チーム

副部長・同）▽田中祥友さん（現部長・生命科学科3年）▽金田大和さん（現副部長・応用化学科3年）と村上教授の連名で、英語でポスター発表し、参加者たちと交流した。

代表して発表した高木さんは「初の国際会議、初の英語発表でも緊張しました。身振り手振りを交え、どうにか説明しているうちに、外国の



方と話すのが楽しくなってきました。今後、学術の場で活動成果を継続して発信してほしい、と後輩にエールを送った。

世界湖沼会議（World Lake Conference）は、1984年に滋賀県が提唱して開かれた「世界湖沼環境会議」の後身として世界各地で巡

りを交え、どうにか説明しているうちに、外国の

回開催され、今回は20年にメキシコで開かれる。

系影響評価—などを発表。また、現地調査で採取した水生生物の透明骨格標本を展示した。

五明研 千葉県内を中心に社会環境、地域環境に着目しフィールドでの環境教育・環境評価を

を進めている。

今回は4年生10人の研究成果として▽チーバクんの健康診断の手法と応用プログラム▽潮間帯や河川蛇行域の生物生息場の微細構造▽千葉県社寺林の分布とネットワーク分析▽三番瀬海浜公園周辺のアカエイのアサリ捕食痕跡分布の分析—をパネル展示。併せて、岩井海岸で採集した漂着貝殻130種類に触れるコ

ーナ、生命科学科3年生が保全生物学講義で作った生物模型を見本にした紙粘土いきものづくり体験・お持ち帰りコーナーを提供した。

環境科学研究会 継続的に実施している印刷場と谷津干潟の水質調査結果と測定機器を展示した。また、新たに印刷場新習志野キャンパス体育館アリーナで開かれた。

千葉県が取り組んでいる同市内9大学でのパラスポーツ普及活動の一環として、「千葉工大でもぜひ」と依頼された先進工学部教育センターの金田晃一准教授が呼びかけ、6学科の学生11人、教職員とその家族17人など、合わせて30人余が参

加したII写真。

「ポッチャ」は「ボール」を意味するイタリア語。重度の脳性まひや手を輩出するなど、全国有数のポッチャ県だ。

金田准教授は今年度前期、担当するスポーツ科

「激しく動いて汗をかく運動や競技だけでなく、本来は体を使うものはほぼ全てスポーツ。そのことをポッチャを通して学生たちが認識し、スポーツの見方を広げてほしい」と、金田准教授は話している。

14日、「体験会」に参加した人たちの大半は初体験だったが、体の動きは少ないのに、頭を使い、技能レベルに関係なく楽しめるポッチャの魅力にすっかり取りつかれた様子だった。

方創生推進事業）に基づき共に地方創生に取り組む聖徳大短期大学の女子学生らが参加した。

本学はハロウィンをテーマに、石膏テープを使った立体アートづくりとスノードームづくりを指導。地元子どもたち約40人が学生と一緒に悪戦苦闘しながらモノづくりに取り組みII写真、廃校舎にぎわいが戻った。

同伴の保護者からは「地方の日常では体験できない機会、大学の取り組みを知るきっかけにもなった」などの意見が寄せられた。

今回は12月、白浜町で共に地方創生に取り組む地元企業と連携したラボを予定している。

区民祭で提案発表

総市 南房大

地方創生へ 加藤研・鎌田研の学生たち

南房総市大井地区の「大井区民祭（11月3日）」に、プロジェクトマネジメント学科・加藤和彦研究室の12人と都市環境工学科・鎌田元弘研究室の5人の学生計17人が参加し、公的受託研究「南房総市産学協働地域活力創造推進プロジェクト」と

域住民に紹介した。

大井地区は愛宕山や御殿山のふもとに広がる山里で、日本酪農の発祥地。区民祭は地元住民の交流の場で、自治活動の紹介、お隣り披露、炊き出し、レクリエーションなどを展開している。

今回、鎌田研製作の大井地区模型にプロジェク

ターで航空写真を投影しプロジェクトマップを披露したII写真

⑤。今後は防災ハザードマップを投影し、避難場所や避難経路を検討しているなどの運用を検討している。

南房総市では他にも本学の5学科8研究室が各地で活動中。これらの活動も紹介した。

一緒に祭礼楽しむ

これより先の10月13日、加藤研・鎌田研の学生15人は、大井地区の「秋の祭礼」に参加し、祭屋台（山車）を引いて地区内を練り歩いた。屋台上で奏でるお囃子にのって男子学生たちは山車を引き回し、女子学生は小太鼓たたきに加わったII写真

⑥。調査研究に協力してくれる地元自治会や地域の人々と祭りを楽しみ、大井地区に根付く文化の実態調査としても収穫が大きかったという。

廃校舎でハロウィンアート

鎌田研・大嶋研がオープンラボ



公的受託研究「南房総市産学協働地域活力創造推進プロジェクト」の一つとして「オープンラボ in 第2回 OPEN LAB MARKET」が10月13日、同市白浜町の旧・長尾小学校を利活用したシラハマ校舎で開かれた。

都市環境工学科の鎌田元弘研究室、デザイン科学科の大嶋辰夫研究室の学生4人と、COC+（知の拠点大学による地

方創生推進事業）に基づき共に地方創生に取り組む聖徳大短期大学の女子学生らが参加した。

本学はハロウィンをテーマに、石膏テープを使った立体アートづくりとスノードームづくりを指導。地元子どもたち約40人が学生と一緒に悪戦苦闘しながらモノづくりに取り組みII写真、廃校舎にぎわいが戻った。

同伴の保護者からは「地方の日常では体験できない機会、大学の取り組みを知るきっかけにもなった」などの意見が寄せられた。

今回は12月、白浜町で共に地方創生に取り組む地元企業と連携したラボを予定している。

パラ競技へ理解を

ポッチャ 金田准教授が体験会

新習志野



足の機能障害をもつ人たちのためのスポーツとして、ヨーロッパで考案された。2チームが青と赤のボールを投げたり、転がしたりして、白の目標球にいかにか近づけるかを競う。「陸上のカーリング」ともいわれ、パラリンピックスの正式種目。

千葉県は日本で最初にポッチャ選手権大会を開催したり、日本ポッチャ界のエース、廣瀬隆喜選手をはじめとする強豪選手を輩出するなど、全国有数のポッチャ県だ。

金田准教授は今年度前期、担当するスポーツ科

「激しく動いて汗をかく運動や競技だけでなく、本来は体を使うものはほぼ全てスポーツ。そのことをポッチャを通して学生たちが認識し、スポーツの見方を広げてほしい」と、金田准教授は話している。

14日、「体験会」に参加した人たちの大半は初体験だったが、体の動きは少ないのに、頭を使い、技能レベルに関係なく楽しめるポッチャの魅力にすっかり取りつかれた様子だった。

船橋市と連携協定締結

記念に「科学の大広場」

本学と船橋市は7月17日、地域創成・教育文化・人材育成などで包括的連携協定を締結した。これを記念して千葉工大「科学の大広場」が10月20日、同市教委主催・第28回教育フェスティバルの1つとして開かれた。

フェスティバルには、ここ数年、ロボカップ世界大会で活躍した本学のヒューマノイドロボットが参加協力している。今回は船橋市総合教育センター5階・視聴覚ホールを全面を使って計5学科の教員・学生たちが体験教室を展開した。

教室は▽世界一の自律サ



クロマトアートで色の変化に驚く



自律サッカーロボの仕組み



石膏テープでものづくり



スズを鑄造しウェイト作り



キャッチャーローバー操作

ッカーロボットの仕組みを知ろう(未来ロボティクス学)▽石膏テープで手軽なものづくり体験(デザイン科学科)▽色の化学を紡ぐクロマトアートのブックメーカーを作ってみよう(応用化学科)▽スズ鑄造でペーパーウェイトを作ってみよう(先端材料工学科)▽ピンポンたまキャッチャーローバーの操作(機械電子創成工学科)――などで、親子連れ約600人が来場し参加した。子どもたちは学校では体験できない教室の数々に興奮し科学技術に目を輝かせていた。

21日には科学論文・工夫作品展の表彰式が行われ、千葉工科大学長賞▽科学工夫作品II作田陸さん(船橋市立高根中学校2年)の「チューブ列車の模型」▽科学論文II尾崎成悟さん(船橋市立南本町小学校6年)の2点に贈られた。

スポフェスに600人

ドッチビーも登場

秋の第54回スポーツフェスティバル(実行委員 会主催・松永海人委員長)が10月10日、茜浜運動施設と新習志野キャンパスで開かれた。好天

のなか学生・教職員ら約600人が運動不足解消とばかりに汗を流した。種目は硬式テニス、卓球、バドミントン、バスケットボール、ドッチビー(ボールの代わりに柔



サッカーの熱戦



シュート決まるか! バスケットボール

らかいディスクを当て合う)や、誰もが楽しめるミニゲームなど。各会場では真剣な競技が繰り広げられ、笑い声援が飛び交った。

参加者たちは「運動部に入っていないのであえて参加しました。汗を流すのは気持ちいい!」「明日の筋肉痛が怖いので多くの人たちと青空の下で交流でき、気持ちよくて楽しかった」と、スポーツの秋を満喫した声が上がっていた。

本紙10月15日号5面・ロケガ



ドッチビーでディスクを当て合う

岡田名誉教授が死去



本学名誉教授で学校法人千葉工業大学の理事を務めた岡田厚正氏が11月2日、肺炎のため死去した。92歳。

岡田氏は昭和25年に本

学冶金学科を卒業し同年4月、助手として本学に就任、45年、教授。本学副学長、科学技術庁金属材料技術研究所客員研究官、千葉県立現代産業科学館館長を経て千葉工大名誉教授。同大理事。科学技術庁長官賞、私学教育功労賞などを受賞した。

同窓会



本年6月に同窓会副会長を仰せつかりました。よろしくお願ひします。

私は生まれも育ちも千葉県成田市です。成田は歴史豊かな成田山新勝寺の門前町と成田国際空港の国際都市としての二つの顔を持った町です。江戸時代から成田参りで賑わった新勝寺は今年で開

基1080年を迎えました。一方、成田空港は開港40年を迎え日本の玄関として大勢の人々が利用しています。両者の共通点の一つは観光です。参道では外国からの観光客のほか航空会社のクルーの方もよく見かけます。老舗のうなぎ屋に交じり、最近では多国籍料理のレストランもオープンしています。

本学と新勝寺のご縁に毎年5月に行われる「成田山行脚」があります。今年で52回になった恒例行事で参加された方も多いと思います。毎回、同窓会成田支部が「到着式」のお手伝いをしています。境内の成田山公園の浮御堂の近くには、かつて本学の理事長を務められた新勝寺に所縁があった川島正次郎先生の銅像があります。この季節、境内では菊祭りや茶会などいろいろな催しがあります。秋の紅葉もまた格別です。

同窓会副会長 岩舘 和巳

四季雑感



私は周囲を田圃と林に囲まれた古民家に住んでいる。天井が高く隙間が多いので、冬は薪ストーブが頼りだ。薪は近所の倒木である。強風で倒れたりすると声がかかるので、チェーンソーを持って引き取りに行く。太い枝と幹を適当な長さに玉切りして庭に積んでおく。

薪ストーブには耐熱ガラスの窓が取り付けられており、薪が燃える様子を観察できる。薪から放出された可燃性のガスがオーロラのように空中で揺らめきながら燃える様子は神秘的で、いつまで見ていると飽きない。

しかし、夏を除くほとんどの週末はチェーンソーワークと薪割に費やしている。薪ストーブを使っている。薪ストーブの前でも、薪ストーブの前で気持ちよさそうに寝そべっている愛猫を見たり、妻とウイスキーを楽しんでいたりしていると、まあいいかという気がしてくるのであった。

知能メディア工学科 竹本 浩典

編集だより



トカゲやカメ、カエル、イモリ……爬虫類や両生類の、とてもじゃないけど触れたいを試みることに由来するに無いペットが子供部屋とベランダに陣取っていた我が家。今では、トイ・ブードルの「チョコ」、ハリネズミの「オレオ」と「クッキー」の哺乳類が堂々と家族の仲間入りをし、我が家に癒やしとほっこりした時間が訪れるようになった。

チョコは「パパ、散歩!」ママ、「ご飯!」構って攻撃がうとうとし時もあるが、この「ハリネズミ」にいたっては、ただただ可愛い。基本的に臆病で何かあるとすぐ背中をたてて丸まってしまう。痛そうにメ

入証広報課 大橋 慶子